

平成二十九年一月の收穫より

土屋 博

一 「太陽 臨時増刊 明治十二傑」

(博文館創業十二周年紀念、明治三十二年刊、特製定價金七拾五錢) 五七〇頁
古書価格四千圓也。大なる掘出物。十二人の實傳は以下の如し。

- (一) 伊藤博文(政治家)、(二) 加藤弘之(文學家)、(三) 橋本雅邦(美術家)、(四) 鳩山和夫(法律家)、(五) 福澤諭吉(教育家)、(六) 伊藤圭介(科學家)、(七) 佐藤進(醫家)、(八) 釋雲照律師(宗教家)、(九) 西郷從道(軍人)、(十) 伊達邦成(農業家)、(十一) 古河市兵衛(工業家)、(十二) 澁澤榮一(商業家)。

たとへば、澁澤榮一の場合、坪谷善四郎の聞き取りによる。澁澤氏、「私の經歷をお聞きなされたいと云ふことであるが、全體どう云ふ風に御書きなさる積りであるか、私の一身は随分種々の變遷を経て、現時の商人となつたもので、商業界に身を入れてから、最早三十年近くなるけれども、其れはまだ現在であるから、經歷として他人にお話しすることは餘り好みませぬ」と云ひつつ、百頁に亙るロング・インタビューに応じたり。眼前に澁澤氏あるが如き心地す。一般に、有力雜誌の増刊號は、興味深き記事満載の場合多く、古書市にても常に注目すべき處なり。

二 「幕末勤王烈士手翰抄」佐竹義繼編纂

(實業之日本社、明治四十二年刊、定價金壹圓五拾錢) 五〇五頁

古書價格二千圓也。幕末志士の文章力、精神の集中力の高さには目を瞠らざるべからず。書狀の寫眞多數あるは實に貴重なり。

三 「十大徳教家傳」山方香峰著

(實業之日本社、明治四十二年刊、定價金貳圓) 八三四頁

古書價格三千圓也。状態極めて良好。新渡戸稻造、序に曰く、「世人の多數が其徳性を涵養せるは具體的事實に基き、英雄豪傑の傳記逸話を愛讀せるにあること否むべからず。又青年の志を立つるもの端を歴史又は英雄の傳記を愛讀せるに發し、哲學上の原則、倫理學上の學說に基きて決心し開悟したるもの極めて少し。見よ、那翁はプルタークの英雄傳を愛讀して感奮し、リンコーンはワシントンの傳記を讀みて志を立てたりと云ふにあらずや。」「余は山方氏と知ること年あり。其修養と其人格とは本書の著者として最も當を得たるを信ず。」と。

山方氏は、井上哲次郎博士の、(グリーリック氏及びフィッシャー氏の委嘱により)「日本十大徳教家」を撰定せしと聞き、ほほそれに準據したる人選となれり。

本書の目次は以下の如し。聖徳太子、弘法大師、菅公、親鸞聖人、日蓮大士、中江藤樹、山鹿素行、伊藤仁齋、貝原益軒、二宮尊徳。

四 「立志成功 金言辭解」 吉田格堂著

(大進社、明治四十五年刊、正價金八拾錢) 本文二九四頁十附錄座右銘四一頁
古書價格五百圓也。たとへば、

「右手に圖を書き、左手に方を書けば、兩ながら成ること能はず。(韓非子)」

「鸚鵡能く言ふも飛鳥を離れず (禮記)」

「陰徳は耳の鳴るが如し、我のみ知りて人知らず (益軒五常訓)」

五 「山鹿素行修養訓」 足立栗園編述

(文陽堂、大正四年三版、定價六拾錢)

古書價格五百圓也。初版は大正二年。

冒頭の武教小學より、「凡そ士たるの法は、先づ夙に起きて盥漱かいそうくしけつし櫛くしけつり、衣服を正し用具を佩おび、能く平旦の氣を養ひ、而して君父の恩情を體認し、今日の家業を思量せよ」と。

讀書論より、「書は古今の事跡を載する器なり。人古今に通ぜざば則ち時宜に味し、風俗を知らず、人情の過不及を察せず、故に餘力閑暇の間は手に卷を釋かず、上は聖人を師とし、下は群賢に學び、其の善なる者を選んで其の不可なる者を戒む」と。

六 「新編女子書牘文教本」 友田宣剛編述

(晚成處、大正五年九版、定價金貳拾五錢) 百六頁

古書價格百圓也。初版は大正二年。

文語の苑の文語教室には女性の生徒多く、女性向け文語書翰文につきて模範となるテキストを求めらるること多し。本書はかかる要請に合致する一冊と覺ゆ。將來復刻すること
も一案。

七 「名將之戰略 上下」 岡谷繁實著

(國民タイムス社・文成社、大正七年四版、定價各金參圓) 五〇六頁十五四六頁

古書價格千六百圓也。初版は大正四年。

岡谷繁實は名著「名將言行錄」(岩波文庫)の著者。暇なるときに少しづつ讀みたし。

上卷は北條早雲長氏より立花飛驒守宗茂まで。下卷は豊臣秀吉より北條安房守氏長まで。
自序に曰く、「此書應仁以降元祿に至る迄名將百五十人の籌策 略九百十一ヶ條を蒐録し名づけて名將之戰略と曰ふ」と。

(註) 數日後、偶々復刻版(歴史圖書社、昭和五十五年刊、函入上下二冊、定價各五千八百圓)も發見したれば、そも購入す。古書價格千圓也。

(平成二十九年三月六日受附)